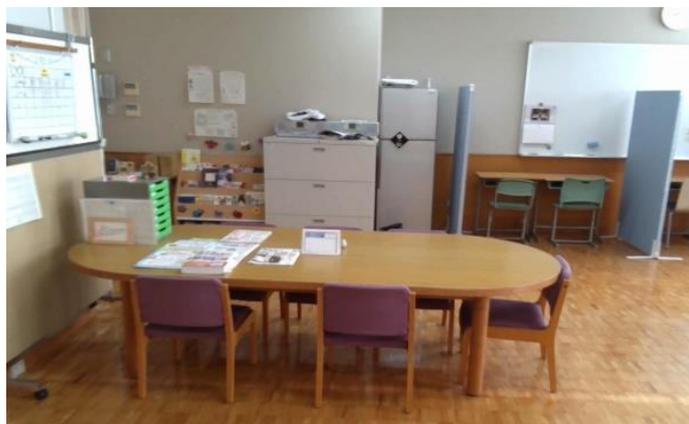


## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

心理的な理由等により教室にどうしても入れない生徒やその保護者、担任に対して、校内別室（SSR）及び東京都教育委員会のバーチャル・ラーニング・プラットフォーム事業等の案内をしている。校内別室（SSR）では不登校傾向の生徒が通いやすいよう、登校時間や登校曜日を利用生徒ごとに柔軟に設定し、取り組む教科の決定や、一人1台端末を活用した利用生徒の在籍学級の授業配信など、それぞれの生徒の状況に合わせた丁寧な対応を行っている。



#### 【取組2】(A中学校)

他学年と親睦を深め学校全体の仲間意識を高めることや、部活動に所属していない生徒にも交流の機会をつくり他学年との友好的関係を築くことを目的として、生徒会が縦割り交流活動を計画している。具体的には、3学年のクラスごとの縦割りで、昼休みを使ってレクリエーションを行っている。

#### 【取組3】(A中学校)

2年生の数学の基礎クラスの授業では、生徒の学習意欲を引き出すために、授業の導入の時間で一人1台端末を活用して、簡単に取り組むことのできる4択問題を解かせている。取り組む内容としては、前回の授業で扱ったものとし、前時の復習を行うことで、生徒の「分かる」、「できた」につながっている。生徒が「分かる」、「できた」と感じることで、学習意欲も向上している。このような学習面での支援を通して、不登校の未然防止を図っている。

#### 【取組4】(A中学校)

教職員が、不登校生徒の対応について理解を深めることができるよう校内研修を実施した。全教職員を対象に不登校生徒の支援に関する知識を伝え、不登校の未然防止につながる取組や、不登校が生じた場合の早期対応について全教職員で話し合った。そのようにして、不登校生徒への適切な支援を実施できるように促した。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（B中学校）

支援会議は週に1回実施している。会議に参加する教職員は、生徒の状況に応じた多様な学びの場を確保するための手だての充実について検討している。各生徒の支援を一層充実できるように、限られた時間の中で議論するようにしている。

### アウトリーチによる支援（C中学校）

4月当初に数回登校して以降まったく登校できていなかった生徒に対して、5月後半から週1回、不登校対応巡回教員が定期的に家庭訪問したところ、7月以降、学級に数回登校することができた。定期的な家庭訪問を今後も続けていきたい。

### 校内別室における支援（D中学校）

校内別室指導支援員は、校内別室に登校している不登校生徒のコミュニケーション能力の向上を図るために、カードゲームやボードゲーム等の活用した集団活動を行っている。また、体育館が使える時間に、バドミントンやバスケットボールを行うなど、小集団での運動も取り入れている。

校内別室を利用する生徒と在籍学級の生徒との交流を図るために、学級の生徒に校内別室まで給食を運んでもらえるよう協力を促している。また、授業の課題や学校行事の事前学習等を校内別室で取り組んでいる。



### デジタル機器を活用した支援（A中学校）

教室に入ることは難しいが、授業を受けたいという生徒のために校内別室でオンラインによる授業の参加を実施している。授業プリントなどについては校内別室指導支援員が教科担当の教師から事前にもらい、生徒に渡すなどの連携を図っている。これにより、多様な学びの場の確保につながっている。

### 関係機関との連携

担当する巡回校及び拠点校において、各校担当のSSWとの情報共有を校内支援会議だけでなく、不登校対応巡回教員とも綿密に情報共有を実施している。今後も引き続き情報を共有し、SSW等、多くの関係機関との連携を図り、不登校対応を行っていく。

## 成 果

不登校傾向の生徒が安心できる、校内の居場所として、校内別室に機能する校内体制を整備した。そのことで、不登校傾向の生徒の多くが校内別室を利用することができた。

## 課 題

家に引きこもっている生徒で、保護者が仕事等で日中家にいない場合、どのような方法でその生徒と人間関係を築くかが課題である。